

美術講座プレミアム

「講師 & 講演テーマ」

第1回 9月12日(木)

美術館学

水上 武夫 元北海道立近代美術館顧問

旅のついでに美術館

これまでに、国内外の有名美術館から片田舎の小さな美術館まで、200館以上を訪問。「一番大事なことは、外に出ること、足を運ぶこと。画集をめくるのはその次」。水上流、旅のすすめと美術鑑賞の楽しみについてお話しいたします。

第2回 9月19日(木)

文学

工藤 正廣

北海道大学名誉教授
ロシア文学者、詩人

<一生幾ばくならず>最後の西行

中世最強の歌人西行(1118~1190)。陸奥平泉への旅は、一度目が、歌枕を探ねた27才(山家集)。二度目が、最後となった69才の旅。その細部をひもときながら、歌とその死生観についてお話しいたします。

第3回 9月26日(木)

日本美術史

鈴木 幸人

北海道大学大学院
文学研究院准教授

「絵馬堂」巡りの絵画論

全国各地にちらばる絵馬堂での調査研究をふまえ、今では、馴染みのなくなった画題(神功皇后、楠公子別れ…)や、絵馬堂の果たした役割にもふれながら、絵馬研究の魅力について、ご紹介いたします。

第4回 10月 3日(木)

制作の現場から

國松明日香

彫刻家
星槎道都大学客員教授

それは劣等感から始まった

東京藝大に進学し、大きな躓きと劣等感によって学生生活もさほど喜びを感じられなかったと語る作家は、自分なりに克服する手段を模索し、周囲の力添えを得て彫刻制作を続けてきました。これまでの歩みや作品を振り返りつつ、その時々のお話しいたします。

第5回 10月10日(木)

歴史

谷本 晃久

北海道大学大学院
文学研究院教授

画家の身分とその作品

～波響・屏山・武四郎を中心に～

近世北海道史を彩る絵画作品。ときには文書よりも雄弁に松前・蝦夷地の時代像を示してくれます。今回は、制作した画家の身分に注目し、その画題との関連を考えます。

*講座日程・内容が、都合により変更になる場合もありますので予めご了承ください。